

「この本いいよ！」

～島根の高校生・高専生おすすめの一冊～

島根県の高等学校・高等専門学校および特別支援学校に通う生徒の皆さんがおすすめる本を、すてきなイラストやコメントとともに紹介します。

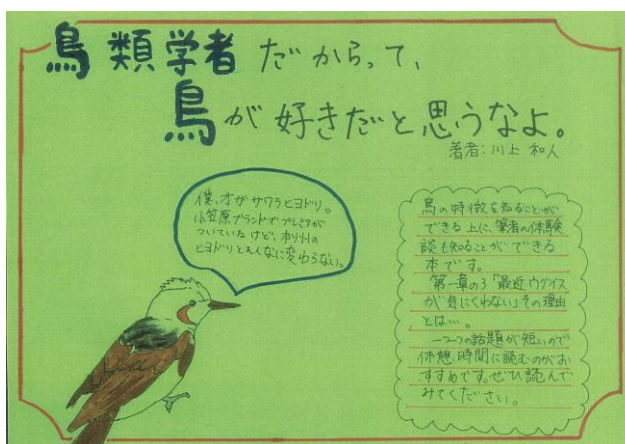


【展示場所】島根県立図書館

【展示期間】令和3年11月5日～令和3年12月1日



『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。』（川上和人／著）



僕、オガサワラヒヨドリ。小笠原ブランドでプレミアムがついているけど、本州のヒヨドリとそんなに変わらない。

鳥の特徴を知ることができる上に、筆者の体験談も知ることができる本です。

第一章の3「最近ウグイスが気に入くない」その理由とは...

一つ一つの話題が短いので休憩時間に読むのがおすすめです。ぜひ読んでみてください。

(1年 M. T)

『春の雪』（三島由紀夫／著）

本物の優雅は、罪によって完成する。

『又、心に砂が滴ってきた。』『春の雪という作品の中で、最も印象的な一文はなにか。』と問われたとき、私はほとんど迷いなくこれを挙げると思います。実はこれ、主人公が美しい幼なじみに、心を感わされる場面での文章なんです。その心情を「砂が」「滴る」という異種の言葉の組み合わせで表現してしまう、その感性に脱帽です。

あなたも、三島由紀夫の言葉の魔法にかけられてみませんか？

実は四部作

この作品は、「春の雪」「奔馬」「暁の寺」「天人五衰」からなる「豊穡の海」シリーズの第一巻です。それぞれのストーリーは一応独立していますが、転生しては天折をくり返す主人公と、それを見守る友人を主体とした輪廻転生の裏テーマを持つ物語です。

三島由紀夫が最後に伝えたかったことはなんなのか...。これらの読後に、ぜひ一考してみてください。

(3年 松村)

『世界のへんな肉』（白石あづさ／著）



（1年 S）

『本日のメニューは。』（行成薫／著）

この本は短編集5つが入っています。本を読むのが苦手な人や、読みたくても時間がない人にもおすすめです！

実際、私も高校に入ってから部活に勉強にで時間がありませんでしたが、この本はサクッと手軽に読むことができました。

この本に入っている5つのお話はすべてが「食」に関わっており、マズメシ母（まずい食事をつくる母親）に悩んでいる子とおむすびを作る女性のお話やある日お店に現れた大食いを「腹一杯！」と言わせたい店主夫婦のお話などどれもおもしろいものばかりです！

涙がでてしまうもの、笑顔がこぼれてしまうもの、ついお腹が減ってしまうものなど、この本を読んでいるとたくさんの感情があらわれてきます。

またそれぞれの話に共通点が出てくることもあり、著者のユーモアが感じられるところもあるので本当におもしろい本です！

（2年 もえピー）

『きよしこ』（重松清／著）

少年はずっとひとりだった。言いたいことが言えず、苦しかった。ある年の聖夜、「きよしこ」と出会う。－「それがほんとうに伝えたいことだったら、… 伝わるさ、きっと」－ 少年の成長を描いた物語。

私の一番印象に残る場面は、高校生になった少年と、ゲルマが再会するところです。思うようにいかないこと、どうしようもないけど辛いことがあるかもしれない。それでも、明日も頑張ろうと思える小説です。

（3年 M. R.）

『5分後に意外な結末③ 白い恐怖』（学研教育出版／編）

借金をかさね、銀行の金を横領してしまい、犯罪者になってしまった主人公が入った刑務所にはおかしなルールがあった。（塀のなかのルール）

読む手が止まらない ドンデン返し

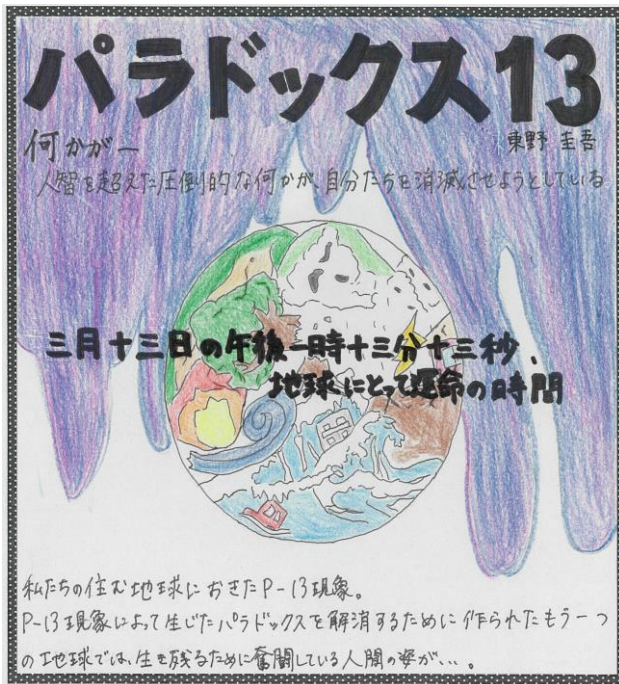
（1年 M）

『むかしむかしあるところに、死体がありました』(青柳碧人／著)



（2年 H・U）

『パラドックス13』(東野圭吾/著)



(3年 高橋那央子)

『きのうの影踏み』(辻村深月/著)

怪談をよんで 納涼

私が始めて買った怪談が「きのうの影踏み」という、辻村深月さんが著者の本でした。

実は、本の表紙がかわいかったので、買った当初怪談集だと思っていなくて、読み進めてびっくりしました!!

この本は小さなお話を一つの本にまとめている物で、じわじわと不気味さを感じるものや、肝が一気に冷えるようなもの、また、胸があたたまるものなど、けっこう色味がそれぞれ違うけれど、どれもどこか現実味のあるお話で、実際にあるのかドキドキします! ぜひ読んでみてください!

(3年 村田)

『君たちはどう生きるか』(吉野源三郎/著)

この本の内容は、15歳の中学2年生のコペル君こと、本田潤一君と叔父さんがコペル君の中学校で起きる、貧困格差、いじめなどの問題について真摯に立ち向かっていくという物語です。

この本から、様々な問題を通して、人間としてどう生きればいいのか、コペル君と一緒に考えてながら読み進めることができます。

「答え」がすぐ手に入るこの便利な世の中で生きている私たちにこそ、是非手にとって、人生について考え直すきっかけにしてほしいと思います。

読み終わったあと、人生観が変わります。

(2年 Y)

『君と会えたから・・・』(喜多川泰/著)

誰も知らない明日のために

将来に対する漠然とした不安を抱えながら無気力に生活する高校生の僕は美しい女の子と出会った。そして、彼女は僕の人生を変えてくれる...。自分、家族、友達、恋人に明日が来ないと知った時、あなたはどうしますか?

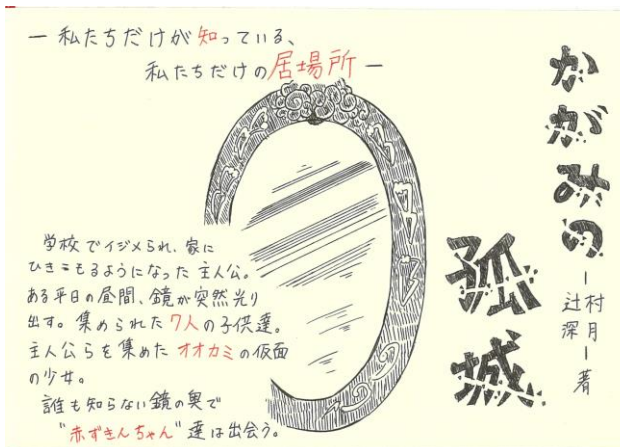
(2年 M・H)

『ひらがなにつき』(若一の絵本制作実行委員会/文、長野ヒデ子/絵)



(2年 K・F)

『かがみの孤城』（辻村深月／著）



(2年 A・T)

『やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。』（渡航／著）

誰もが共感できる！屁理屈が面白い！！

「俺は悪くない社会が悪い。」

主人公「比企谷八幡」は屁理屈ばかり言う超ひねくれたキャラクターです。しかし、意外と核心を突くようなことを言うとても共感できることがあります。そんな彼が奉仕部という部活で活動していく中でいろんな人物と関わり、繰り広げられる間違いだらけの青春模様！

(2年 優希 a.k.a 二次元)

『タイムライダーズ1』（アレックス・スカロウ／著）

『ここに残り、死ぬことを選んででもかまわない。さあ、決断のときだ』

2001年ニューヨーク 9.11とその前日を繰り返すだけの世界 沈没寸前のタイタニック号から連れて来られたリアムは、同じように命の危機を救われたボストン生まれのプログラマーマディ、ムンバイ出身の最年少サルとともにチームを組み、時間の流れを監視する「警察のような仕事」を任される救うべきはナチスに占領されたアメリカかはたまた核によって全てが破壊された世界か たゞそれらを救っても、待っているのは人口爆発と食糧危機によって荒廃しきった未来... 彼らは間違った歴史を修正することができるのか そしてなぜよくもない未来を守らなければならないのか 魅力的なキャラクター 半端ない臨場感 ページをめくる手がとまらなくなる一冊です。

(3年 S・T)

『おもしろい！進化のふしぎ さらにざんねんないきもの事典』（今泉忠明／著）



(3年 まゆげの星)

10校から94作品の応募がありました。たくさんのご応募ありがとうございました。そのなかから、16の作品を紹介します。展示図書は、貸出中や未所蔵のため、並んでいないものもあります。